

観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会での質疑(抜粋)



①**オープンローミングについて。**一度設定すれば、サービスを提供しているところなら国内でも海外でも自動的に接続できる、次世代wi-fiとも言われているオープンローミングについて奈良公園バスターミナルで実証実験をすると聞いているが、現在の状況は。従来から付近で提供しているwi-fiと比べてどうか。

オープンローミングは、9月17日にNTT西日本とICTを活用した観光・産業振興等に関する連携協定を結び、その一環の事業である。令和6年12月に7基設置し、実証実験を行う。コストは従来より少しかかる、速度は同程度だが利用者が増えれば低下する。利用人数や滞在時間等の匿名データを収集し今後活かしていく。



文教くらし常任委員会での質疑(抜粋)



①**奈良県立図書情報館について。**市町村立図書館がこういったことを援助してほしいというニーズはどう把握しているか。また、現状はどういった支援をおこなっているのか。

奈良県図書館協会の公共図書館部会で情報交換等を行いニーズを把握している。具体的な支援としては所蔵している図書や雑誌の貸し出し、レファレンス(利用者からの本探し等の相談)業務のバックアップ、研修などを実施している。



児童書は市町村立図書館に任せ、基本的に図書情報館では新規で児童書は購入していないとの事だが、現在の児童書の蔵書数は。児童、生徒の読書推進のため児童書を積極的に購入し、児童書コーナーも設けるべきと考えるがどうか。

児童書は約4万冊所蔵している。図書情報館開館当初より、小説や児童書など生活に密着した図書は市町村立図書館で、県立図書情報館ではより専門的な図書や情報提供を行う、という方針で運営している。デジタル図書も増えてきているなか、県として児童書コーナーを設けるなど児童書を拡充するかは今後検討していく。



関本からの提言!

私も県立図書情報館は利用しており、自習スペースはよく使われているのを目にしているが、パソコン利用席の利用率は聞いたところ50%程度。戦争関連の本を集めたコーナーもあるがあまり人はいないように感じるのでスペースの有効活用が必要。また、奈良県は児童生徒が読書をしている、したいという比率が全国平均より低い。滋賀県や岡山県等では新規発行された児童書を全点購入して読書を推進しており、奈良県でもそれくらいして子どもが本に親しめる環境をつくり、読解力も向上させていく必要があると提言を行いました。